



# 組織部速報

2023年8月8日  
No. 4

## 戦後78年、終戦の日

テレビの特集番組を視聴し、平和への思いを共有しよう！

8月15日、78回目の終戦の日を迎えます。毎年、終戦の日前後に戦争の真実を伝える特集番組が各局で放送されます。

ロシアとウクライナの戦争は、1年半が経過した現在も終戦のめどが立っておらず、西側諸国からウクライナへの武器供与により戦争は一層泥沼化しています。

一握りの権力者の意思によって始められる戦争の犠牲となるのは、弱者である女性や子供、そして労働者であり、私たちにとって戦争は無益な争いではありません。

戦後78年が経過し、戦争経験者が少なくなっている中で、テレビの特集番組を視聴し、反戦・平和への想いを新たにし、平和を希求する仲間の輪を広げよう！

今年も終戦の日の前後に、戦争の悲劇を記憶する番組が放送され、舞台公演が行われる。映画館も関連作品を上映する。戦後78年。当時を知る世代が減り、エンターテインメントを使った記憶の継承がますます重要になっている。



「軍港の子～よこすかクリーニング1946～」から＝NHK提供

### テレビ

### NHK 戦争孤児描くドラマ「軍港の子」

いことが伝われば」と田島ディレクター。さらにこう付け加える。「戦争孤児は大人に助けしてもらえず、いわば見捨てられた子どもたち。トー横キッズなど、今につながる」  
史実に近づけようと横須賀内外で当時を知る人を訪ねたが、「去年までは元気だったのに」と言われることも多かった。桑野智宏・制作統括(44)は「戦争が過去のものになりつつあると実感した」と危機感を語る。NHKスペシャルやE TV特集などでも戦争や平和を取り上げる。

#### 民放各局も工夫こらし

日本テレビ系はNNNドキュメント23(日曜深夜0時55分)で放送する。「伝承の期限 どうつながる? ヒロシマの記憶」(6日)は、広島の実体験を語り継ごうと志す若い世代と、彼らに希望を託す被爆者取材した。「でくのぼろ～戦争とPTSD～」(13日)は戦地で心を壊された元兵士の苦しみに向き合う。「あの日は消えない ヒロシマ被爆者は今」

(20日)は広島から離れた地で原爆の記憶に苦しむ人を取り上げる。

テレビ朝日系はテレメンタリー2023(土曜午前4時50分、静岡は火曜深夜1時50分)を使う。「国境に集結せよ モンゴルの草原に残るソ連軍の痕跡」(12日)は現地の調査取材。「踏まれても踏まれても～ゲンと子どもたちの半世紀～」(19日)は、漫画「はだしのゲン」が広島市内で使われている学校教材から削除された問題を追う。

TBS系の特別番組「つながる、つながるSP 戦争と子どもたち 2023→1945」(12日午後3時)は子ども戦争参加に注目。ロシアのウクライナ侵攻や、太平洋戦争末期に沖縄にいた少年部隊などを取り上げる。14日の「news 23」では、綾瀬はるかさんが日本で暮らすウクライナ避難民に戦争の現実を聞く。

B Sテレビ東京は「池上彰の戦争を考えるSP 2023」(15日午後5時58分)で核兵器の歴史をたどる。

(石原真樹)

## 戦後78年

NHKは総合でドラマ「軍港の子～よこすかクリーニング1946～」(10日午後10時)を放送する。戦後に米軍が駐留した横須賀でたくましく生きる戦争孤児を描いた。実話を下敷き、日本各地で取材した戦争経験者の証言や資料をもとにしたフィクションで、田島彰洋ディレクター(34)は「若い人が戦争を考えるきっかけになれば」と語る。  
主人公は戦争で親を失い、親戚の営む横須賀のクリーニング店で働く少年。つらい仕打ちに耐えかねて家出し、孤児たちと暮らし始

める…。企画の出発点は田島ディレクターが2年前、新型コロナ禍で自殺する子どもや、東京・歌舞伎町の一角に集まる若者「トー横キッズ」の報道に触れ、「若い人に生きる活力を与えられるドラマを作りたい」と思ったことという。同じ頃に脚本家の西田彰夏(32)から、亡くなった祖父が戦後に横須賀でクリーニングの仕事をしていたとの話を聞き、ドラマ化を考えたと。  
「家も食べ物もなくとも、孤児は自分たちで頑張った。そのパワフルさや「生きているだけですこ

2023年8月6日東京新聞より